

第5章 練習問題② 補足事項

本書の初版においては、「わからない」「無回答」をのぞいたクロス表を提示していた。しかし第2版では、「わからない」「無回答」を含めたクロス表を提示している。全体に占める「わからない」「無回答」の割合が年齢階層別に異なっているため、それらを含めた場合とそれらをのぞいた場合とでは、結果が異なってくるからだ。この点について、本文中で説明していなかったため、以下に補足事項として記す。

本書の第2版 69 頁にあるように、「生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」という質問に対して、70 歳以上では「わからない」が 11.6%、「無回答」が 32.1%におよぶ。そのため、「わからない」「無回答」を含めたクロス表（下の百分率クロス表 A）とそれらをのぞいたクロス表（下の百分率クロス表 B）を比較すると、結果が異なってくる。具体的には、「そう思う」と答えた人の割合は、クロス表 A では、20 歳代が 1 番高く、2 位は 30 歳代、3 位は 50 歳代、4 位は 40 歳代、5 位は 70 歳以上、6 位は 60 歳代になるが、クロス表 B では、70 歳以上が 3 位になる。

百分率クロス表 A

%	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
そう思う	50.0	39.4	32.3	33.2	24.3	26.4	32.6
そう思わない	33.3	42.1	48.8	46.8	44.7	29.9	42.0
わからない	11.3	14.0	13.9	11.9	16.8	11.6	13.6
無回答	5.4	4.5	5.0	8.1	14.2	32.1	11.8
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

百分率クロス表 B

%	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
そう思う	60.0	48.3	39.8	41.6	35.3	46.9	43.7
そう思わない	40.0	51.7	60.2	58.4	64.7	53.1	56.3
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

「わからない」「無回答」の発生要因として、調査者側によるもの（質問文が曖昧、選択肢が包括的でないなど）と、被調査者側によるもの（性別や年齢といった属性、意識を問われる設問、質問文の多さによる疲労など）とが考えられる。そして、「わからない」「無回答」の扱いについては、さまざまな議論がある。たとえば、欠損値として処理する、1/3 や

1/2 など基準を設定し、「わからない」「無回答」の割合がその数値を上回る場合は欠損値として処理する、それ自体が重要な情報源であるから残して分析するなど、調査目的や結果の活かし方によって、その判断はケースバイケースである。

「生死は最終的に本人の判断に任せるべきである」という質問に対して、70歳以上で「わからない」「無回答」を合わせると4割を超えたということは何を意味するのだろうか。「わからない」「無回答」をのぞくとかえって作為的になるのではないかと判断し、本練習問題では、クロス表 A のみ提示した。参考のため、初版同様、それらをのぞいたクロス表（下の度数クロス表 C）を以下に提示する。

度数クロス表 C

N	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
そう思う	102	115	123	123	110	84	658
そう思わない	68	123	186	173	202	95	847
計	170	238	309	296	312	179	1505

謝辞

補足事項の執筆にあたり、そのきっかけを下さった、本書を授業に採用していただいている先生と学生の皆さんに感謝いたします。